

オリンピック・パラリンピック教育における「東京都公立学校パラスポーツ交流大会」の実施について

平成 30 年度障害者理解を深める取組を充実

- ① パラリンピック競技応援校の指定 ⇒ 10校から20校に拡大。競技団体と連携し、体験、観戦、応援等を実施
- ② 教員を対象としたパラスポーツ指導者講習会の開催 ⇒ 10回(267名受講)から14回(420名受講予定)に拡充
- ③ 「被災地等と連携したパラスポーツ体験交流」の実施 ⇒ ボッチャを通じた中学生の交流を5月に実施(新規)
- ④ 「東京都公立学校パラスポーツ交流大会」の開催 ⇒ 昨年度のボッチャに加え、フロアバレーボールで交流

東京 2020 大会後の
レガシー
○パラスポーツの普及
○共生・共助社会の形成

「平成 30 年度東京都公立学校パラスポーツ交流大会」実施概要

実施目的

- 都立特別支援学校と小・中・高等学校との交流を一層推進
- パラスポーツの普及・啓発

フロアバレーボール大会(新規)

- 平成 30 年 7 月 21 日(土) 10 時～14 時 30 分(予定)
東京都立文京盲学校
- 視覚障害特別支援学校の児童・生徒と小・中・高等学校の児童・生徒が混成チームを編成して総当たり戦で実施(8校4チームが参加予定)

【フロアバレーボールとは】

全盲や弱視の視覚障害者と健常者が一緒にプレーできるように考案された競技。

床上に 30cm の隙間ができるようにネットを張り、ネットと床との間にボールを通過させて相手コートに打ち返す。

チームは前衛 3 名、後衛 3 名の計 6 名で構成。前衛選手はアイマスク又はアイシェードを着用し、床面を転がるボールの音や、後衛選手の指示を聞きながらプレーする。



ボッチャ大会(継続)

- 平成 30 年 8 月 4 日(土) 10 時～16 時(予定)
東京都立府中けやきの森学園
- 肢体不自由特別支援学校及び小・中・高等学校の児童・生徒が参加(31校35チームが参加予定)
- 2リーグ形式で展開
 - ①特別支援学校と小・中・高等学校の混成チームによる交流戦
 - ②特別支援学校チームによる学校代表戦

【平成 29 年度実績】

「東京都公立学校ボッチャ交流大会」として実施し、25校35チームが参加。大会後、混成チームの児童が手紙をやりとりしたり、小学生が特別支援学校のボッチャ部の練習に参加したりするなど、大会を契機とした交流が続いている。

都立高校生による支援

- 大会運営や参加チームのサポートを行うボランティアとして参加
- 工業高校 8 校(予定)の生徒が、大会で使用する横断幕やボッチャ競技用補助具(ランプ)を製作し、大会運営を支援